

談話会 1974.5.12.八王子城趾

通信

1号採集・観覧会報告

1974.5.13
東京茶硯談話会

1974年3月17日、小野・山ツ西君と採集観覧会の予定日と、又、場所を討議したところ、高尾山の名があつたが結局八王子城趾となった。この採集・観覧会は、選考委員会でも、年に数回やろうといふなかなか実現出来ないといふたこと、念願のものだった。「5月12日、八王子城趾」と決定し、会員へ通知(4月19日)。

萱嶋先生からいわれあり、会の目的もあつた。底辺の拡大といふこと、朝日新聞社に、4月25日、この採集・観覧会について、掲載を依頼したところ、4月30日に、向合せの電話があり、各事項について、確認した後、1日か2日の朝刊に掲載される由、話があつた。浦和の方では、2日の朝刊17面の「週刊版」に、「私の身辺メモの補正」に、掲載された。これに気を配り、模造紙半切のポスターを高尾・八王子駅に貼らうとしたところ、八王子駅では貼る場所かわからないので、10月日、昼間に来るといいとのこと、昼間はさうも勤務があるの、ついその子に任せてしまった。また、高尾駅では、模造紙半切だと、1日100円(1週間単位で700円といたか)かかるの、その日は、その子かえり、後日、(といた)新海・山ツ西君と共に、高尾駅に行ったら、30分も待たされた。あけ、「今日は、たかしいから、明日、昼間にきつてくれ」とのこと、しかたなしに、名利に、掲載依頼とその期日を譲り、ポスターと一緒にあつたところ、きつてくれ、ことわられてしまった。ことわられた

その日は、5月8日。

この向に、一般の方にも呼びかけたのだから、集合場所かわかるようにと、旗を作った。旗のデザインは、松本かし、新海君、萱嶋先生にも相談したところ、まああつたから、専門家小沢氏の意見をきくようにいわれ、葉書で相談。7日間の後、懇切な返事かきと、銅鑼中の矢の図や、コガネグモなら、黄と黒の縞だけで、コガネグモと改め、再び萱嶋先生、新海氏と討議の結果、デザインに決定。(出来上りのものは、少々、地味すぎた)。

そして当日、

10時集合があつたが高尾駅南口についてのは、9時20分、おどろいたことに、8時半に着いた人がいた。その人の名は大川慧子氏。(高尾、意外と近かたです。)ほつほつと集まり、出発時間まで、予定の方々が、全員そろつて、10時34分、造形大学行バスにのりこみ、終乗りの40円をばらして、おしゃべりはじめた。

新聞をみて、参加して下さった方は、何人のちよとしたまかけで、大嫌いな7人が大好きになつたという、松戸からいらした、佐野千恵子氏とご子息のアツシ君、ユースホステルを経営なさつて、多くの観覧会に参加、また、自身でも、催しを計画されるという、岸野幸雄氏、岸野氏からきて参加された、草(こ)立子氏の4名だった。新聞に掲載したのは、正解だった。

造形大学でバスを降り、100m程歩
いて、城趾入口につく。その昔、北条氏照
の城だったという。説明の看板と城趾
の地回の前で、萱嶋先生から本日の
採集・観察会について、教分お話しが
あり、そのあと、各自、自己紹介を簡単
にした。参加者は、萱嶋泉・古波隆
村田・小野辰嗣・石山鉄幸・権田重雄
佐野千恵子・佐野アツシ・島田順一・
岸野幸左衛門・厚立子・大村昌久・関下俊
英・新海栄一・新海明・高野伸二
三ツ重・大ツ鷲子・松本好子・松本誠治
の計 20名。

ルートは、旧道→本丸跡→新道とま
め出発。新海栄一・小野辰嗣の両氏
には、大役を果して帰らされた。というの
は、ルートに沿って、みつけたクモに名札を
つけていってもらったのである。そのあとを、皆は
名札をみつけながら、勿論それ以外の
クモもみつけながら、登山。名札をみつけ
ても、クモがみえず、やっとみつけた。クモ
の小さいことや、カモフラージュのうまいと
におどろきながら、2人の目のつき、同定
力に、敬意をこめて、名札をたのしみ
にあつた。

高野伸二・古波隆・関下・小沢の諸氏
ならびに、石山・権田・大村氏と共に、
萱嶋先生は、皆勤に、名札のあるクモ
に、生態等の説明をしていった。これに
も、皆は、クモは再び再認識し、おどろ
いた。

カメラを持って来た人も多く、又、学園研
究社のカメラマン村田氏もおり、あちこちで
シャッターの音かした。

いつものことながら、クモの採集・観察会
のペースは、のろく、あとから登って来た
ハイカー達に、みられながら、ヒューンと抜か

されていった。新道と旧道の分れ道
(というより合流点)については、後
1時をまわっており、やっと、昼食^干が
出来た。……………(昼食中の
沈黙)。後、萱嶋先生の口火で、各自、
少しくわしく自己紹介・近況をいっ
ているうちに、2時半になり、腰をあげる。
権田・小野の両氏は腰かけにして板の
山を根気よく1枚1枚うらみかえし、クモを發
見せんものと目をこらす。中からは、ユウレイ
クモ、コモリクモ (*Pirata* sp.)、ナルトミ
クモ、コアシクモがそれぞれ多数出
て来た。

本丸跡では、^{大ツ鷲}コモリクモが、卵を張り、
卵のうをもらってかくれているのを見
新海栄一氏が発見。カメラが一せいにまわ
した。新海氏は、卵のうをまもるクモの
習性を利用して、クモの茎一本で、ポ
ースをつけ、シャッターをおす。皆それ
にうなづいた。

4時10分、そろそろ早く山をおりた。岸野
氏、佐野氏も1台別のバスでかえ
ろうと下山。

下子で来て、やっぱりいいまい子を
まかした。再び、勇士が登山、その時の
小沢氏の若さには、皆が驚嘆。
まい子は、本当のまい子をつれて、先に山
をおり、親にうなづいたとわかって、一同、
ホッとしたり、……くたびれわけてきた。

高尾駅南口で、もう一度、皆の顔をそろ
え、萱嶋先生より、大成功だった本会
の閉会を宣言され、解散。

本報告は、なるべく早くとの気持ちで本誌
か一人づつかいてほしい。成り積報告や
感想は、おとせ、発行します。

(1974.5.13)

1974・5・14

東京蹴蹴談話会

4月30日付でお送りした「会誌 Kishidaia に于けるアンケート」の回答がよせられています。早速に回答下された方々には感謝いたします。未回答の方には宣しくおねがひいたします。以下、意見を数名の方からいただきましたので、掲載させていたまたります。最終的な発表はあと後にしたいと思ひます。

○ 会誌の内容を思ひ切つて連絡紙的のものにした方がよいと思ふ。会・個人の行事予定(仲間集め)、会員紹介(個人グループ)、意見・技術の交換、etc. を中心にし、それに簡単な報文や解説記事を加えたらどうでしょうか。体裁は no. 1-4 が適当。むしろ Kishidaia を廃して連絡紙新設という事に近いことを考えています。そして会からの通知はすべて Kishidaia を通じてというふうにしたいものです。会誌印刷には出来れば若い人の労力奉仕に依存し(これは会の運営・事業への参加という大きな意味があります)、中古でもよいから謄写印刷機や、実体顕微鏡、光源ランプの購入などは、会費・寄付などを使ひたいものです。ある程度まとめた研究は、しかるべき専門家の指導により Atypus へ。また、会誌発行は、これより一頁のみでも、定期的に発行することが会員の信頼と得るところと思ふ。(A)

○ 私も投稿したいもののびとりでの文章をいける資格はないように思ひます。でも希望としては、Fauna の記載より、観察文の方が良いと思ひます。目録の寄せ集めは、意味はあるが、楽しめるものと思ひます。(Y)

○ 大変御苦労と存じますが、いままでのおりくべつ下されい。会員の叫びを新入会員

により理解させるのもせねばならない仕事ではないでしょうか。(I)

○ 盛んに御研究なされたい若い人達の情報を、ほんの細かいところでも、たくさん読み取ってほしい。そういう先生、投稿しにくく申し訳せぬが、そのうちにとと思ひます。(Y)

○ Atypus と同様にある程度の手とった報文も、簡単な雑文的なものも両方にとり入れた方がよいと思ふ。また、各地の採集・観察地案内など毎号のせていくこともよいのではないか。どの地方の人にもわかるように、○○ 駅下車からはじまって詳細な道案内(地図も入れて)をいれるようにすれば、会内相互の研究に役立つのではないか。(H)

○ 原稿が集まらない理由の一つとして、次のことかといふもいます。それは Kishidaia での研究発表が文献としてどのところに扱われるかです。例えは、ある研究をまとめ発表するとき、他の学会やクシ学会に所属している人がほとんどであるがため、それぞれの学会誌に発表する場合が多いのではないのでしょうか。各人それぞれ多くの研究をいかに人にまとめあげられないと思ひます。私も投稿をしたことがありませんが、やはり似たおりに一回です。(H)

○ 上記の中「Kishidaia」の名称だけは変えないのが良いと思ひます。会がもっとも大きく育ったとき、名称も素晴らしいものに必ず聞えると思ひます。(記念号 I 号の萱島先生の記事の内容に、基本的ポリシーがあると思ひます。(M)

○その生態写真の写し方を本誌に載せたい。

○Acta Arachnol., Atypusが健在である以上、現在のクモ人口では原稿難は必至と考えられます。談話会、観察会を通し、会員相互の連絡と才主主義とし、(そのための連絡紙は必要) Kishidaiaのような原稿をのせる会誌は場合によっては発行しなくてはならないと思われます。(M)

○会誌の内容が高級すぎることは私も感じております。ですから研究報告集と連絡紙(収めても内容自由、ラフ、フスビ、カ版がよい)の方法は積成です。他にも役に立つとはアマシイかもしれせんが、いまでも受身的では会員としてよくないですのて……ぜひ、どちらの仕事もさせて下さい。(K)

○地元にいると行事にも参加できません。申し訳なく思っています。会誌に……いは私はタイプ3版にするとそれなりの責任も出て来、カの場合には選んだ重さがあるとは思いますが以後に残すというところから考えると、現在のものの方がよいと思っております。(Y)

○会員、各事務所(連絡先)と時々、Kishidaiaのうしろにのせて下さい。運営委員会の意見も仲々やっております。

○所節柄、会誌の発行が苦労なっておりますの事と存じますかぜひ、ついでにたてたものです。

Kishidaiaは1回、他に適宜連絡紙をだされてはどうかというか(M)

○みんなそれぞれ就職してしまい、研究したり採集したりする機会が(一掃)ほとんどなくなりました。その為、今回(5月12日)の様に採集会をもち

らうと大変よい刺激になります。(T)

○今までの通りの方法が良いと思います。わざわざ別に連絡紙を作れば、それだけ費用もかかることと思います。ですからKishidaiaの中に連絡の部分をつければ十分だと思います。(H)

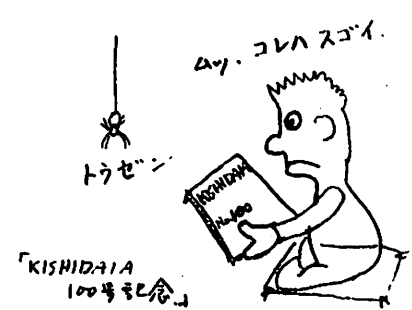
○KISHIDAIAの内容をもち多様なものとして、連絡紙を兼ねられるものとした方がよいと思います。連絡紙を作ると、この方の発行にも追われることになりかねないし、印刷発送代も大変なものになってしまふでしょう。KISHIDAIAの後の方に、1-2頁使って連絡や事務等の連絡をし、急な採集会等は、いままで通り葉書まで良いと思います。

○いろいろと御苦心され有難く存じます。田舎にいます小生は、お便りや会誌を人妻有難く読んでいます。どうか今後と続け、御骨折りに載せければ幸いです。(T)

○お便りを勝手に発表してはくれません。下さい。イメールのほうも、無記名の方のものです。

5月14日現在、24名の方々に回答をいたしております。

紙上討論、大歓迎です。これについての労働はとてつねに、たに連絡通信費がたかたかた、と心配しております。



談話会通信 アンケート集計報告 1974.9.7
 観望会報告(その3) 東京秋談話会

東京秋談話会誌 Kishidaia
 に関するアンケートの回答が、会員
 数の3分の2と返りました。以後
 回答がとれましたので、こゝで集
 計し、今後の活動に反映させ
 たいと思います。その前に、2・3の方
 からのご意見を発表しておきたい
 と思います。

○ Kishidaiaの原稿は、少なくと
 も、はじめのうちは世話役の何人かの人
 が、よび水原稿を書き続けたいと
 仲々集まらないと思います。担当に
 なった人はきついでしょうか、何とか
 企画してみてください。世話役の人
 には常識のことでも会員には解
 説をする必要があります。解説記事
 ものせて下さい。(S)

○ 原稿が集まらないということは
 会員私たちの責任です。注文・意
 見以前の問題でしょう。私たちは
 もっと努力しなければならぬと
 自戒しました。しかし、速報性のある
 談話会通信をこの所を送りいた
 だいて興味深く拝見しています。
 KISHIDAIA No.38の「大ニュースな
 ど」のような形をお知らせいた
 けると良いと思います。(J)

○ いつもごくりうまです。私も
 かり刷くらいたい。お手伝いませ
 ますので、ご連絡下さい。(C)

裏面に回答を寄せられた40名の
 方の回答内容を全部記しておま
 した。幸いなことに、会誌の発行を
 やめよ、といわれる方が皆無であ
 りました。38号まで続いた Kishidaia
 の存在は充分意義あることと思
 います。それからの会誌発行につ
 いては、総意を十分反映させねばと思
 います。財政的な面において、運
 営委員会の方針通りに実施するこ
 とで、ご納得いただけるものと、アンケートの
 集計は示しているように思います。
 1974年から、Kishidaiaの発行は年
 1-2号にあわせて、パンフレットをま
 くらだけ多く、定形郵便としてお
 届けしてまいりたいと思います。

Kishidaia B2に新しく発行するパン
 フレットは、次に、会員全員で作り
 ゆくものと、大原則はくすしてあり
 ません。是非原稿をお寄せ下さい。
 *手書きのパンフに載ってしまつたもの
 記録として、価値あるものは、Kishid
 aiaに再録することも可能です。
 サイズ孔版では、ちよと大げさだ
 と思われる内容については、手書きパン
 フを利用してください。

最後に、難解・不手際なアンケート
 にご協力下された方々に、感謝い
 たします。(運営委員会)

募 集!
 パンフレットの名称。(裏面の名称を参考
 にして下さい)
 パンフレット記事。(葉書で結構です)

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6	3	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dragline	しおり系・東京蜘蛛談話会録	まどい	Spider news, Kishidaia news	東京蜘蛛談話会誌	Zilla																			
50	20	8	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
30	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
4	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
5~6	4	4	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

蜘蛛

↑ 蜘蛛 ↓

1 2
3 4

3 5

4 4

4 4

4 4

Zilla

東京蜘蛛談話会誌

Spider news, Kishidaia news

まどい

東京蜘蛛談話会連絡紙

しおり系・東京蜘蛛談話会録

Dragline

蜘蛛
4 1 2

16
5 20
5 4

20 8 20
5 10 2

6 8 10 12

4

10 10 20 20

6 11

8 12 12

4

50 30

4 5~6

40

4



クモ観察会の カニグモ

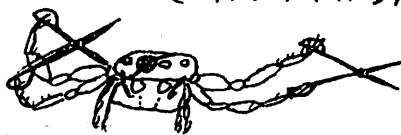
5月12日八王子城趾で行なわれたクモ観察会では楽しい一日を過ごすことができました。

当日参加されたお多くの方々から採集されたカニグモ(*Xysticus*)をいただきました。どれを子成体で飼育したのでおべて生かして持ち帰り飼育を始めました。(早成成体3, 合亜成体2, 幼生1) そのうちの幼生は5月18日に脱皮に失敗して死んでしまいました。しかし、同じ日に早成成体の一匹が脱皮して、成体となりました。外雌器を調べた結果ヤミイロカニグモと判断しました。それから数日の間に他の早成成体, 合亜成体の一匹も成体になりました。合亜成体のもう一匹の仔は脱皮直前になせか死んでしまいました。脱皮のときは飼育びんが小さいと失敗する率が高いようです。

これらのクモたちは脱皮の様子や交接など様々な生態を私に観察させてくれました。いずれKishidaiaに報告させていただきます。

いまなお2匹の早成成体が生きています。そのうちの1匹は小沢実樹氏から借りし、道路上で採集されたもので、前中眼が一個の奇型でした。

貴重なクモを載せた本々にお礼申し上げます。なお今後ともカニグモが採れましたら種類・成体は伺いませんので、標本をおみせ載ければ幸いです。(1974-7-1 小野居嗣)



News 60代

8月3日から6日まで、有田で富士山にクモ採集にいきました。採集地は、吉田口浅間神社、そこから2km登った地奥(北富士演習場際)、鳴沢水穴、富岳水穴、コウモリ穴、スバルライン入口、須走口浅間神社、の7ヶ所、そのほか大気の向いたところは1, 2ヶ所でした。収穫は117種。シモフリミンクモがアリの巣に2匹、捕え、食べていると2匹を撮影、トラフカニグモの産室の撮影、セシジカケレグモの捕食とまじいの撮影と収穫は、大したものでした。シモフリミンクモの捕食習性は、他のミンクモの仲間のもと一緒に、新海氏が、第4回東亜蜘蛛学会大会で、紹介しました。(1974-9-3 松本誠治)

左記の小野氏の記事中にカニグモの奇型の2つが記述された。奇型についての記事を、思いをよぼすので掲げておきます。

- MIKULSKA, I. & L. JACUŃSKI (1970) A two-headed monster of the Spider *Tegenaria atrica* C.L. Koch. Acta Arachnol., 23(1): 17-19
- YAGINUMA, T. (1971) A colour Anomaly in the spider *Heteropoda venditoria* (Linné) from Japan. Acta Arachnol., 23(2): 21-22 1PL.
- 田中統種 (1971) オニグモの雄雌モヤイ Acta Arachnol., 23(2): 23-25.
- 西川英朗 (1971) カニグモの雄雌モヤイ Acta Arachnol., 23(2): 26-28
- 石野田辰夫 (1955) オニグモの奇型条痕 2-3に於て. Acta Arachnol., 4(1): 14
- 大石茂善平 (1953) 蜘蛛の奇形3種例 ATYPUS, (4): 7-8
- 八木沼健夫 (1966) クモの奇形3種. Acta Arachnol., 20(1): 21-23
- 八木沼健夫・有田正身 (1966) カニグモの性モヤイ. Acta Arachnol., 20(1): 18-20